

期待を込めて



田島 誉士

家畜感染症学会 第2代会長
酪農学園大学獣医学群

様々な領域の獣医学関係者のみならず畜産学研究者や免疫学研究者らも多方面から参画して意見交換から始まった日本家畜臨床感染症研究会が、発展的再構築をして家畜感染症学会として情報発信の活動を続けて20年になります。今から10年前の十周年記念誌には当時の会長として「家畜感染症学会の将来展望」と題する拙文を寄稿させていただきました。それからの10年を顧みてみると、科学の進歩と地球規模の環境変化、それに絡まるような社会状況の複雑な変遷が、我々が研究対象とする生産動物の伝染病にも様々な影響を及ぼしてきているのではないのでしょうか。本会として、時代の流行にとらわれることもなく、それらの状況に少なからず対応してきていたのではないかと感じ

ております。

家畜のみならず地球上の様々な生物に横断的に関与する感染症が、陸海空に棲息する種々雑多な動物において報告されてきています。近年の獣医関連領域では、ワンヘルス（One Health）というフレーズを掲げて様々な対策に取り組もうとしています。自然界の頂点に君臨すると自負する人類が、ほんの小さなウイルス一つによって社会生活が機能不全に押しやられたのは記憶に新しいところです。安全な食の提供と効率的な食資源の生産を担う実務者に向けて、大局的な観点を疎かにすることなく本会が今後ますます有用な情報源となる活動を継続できる集まりであることを期待します。